

復活の絆をつなごうキャンペーン 活動報告 その4

10月16日、17日

陸前高田市と盛岡市に

「濱の絆 レーズンサンド」を届けてまいりました。



株式会社ありあけ
広報室

ありあけでは「復活の絆をつなごう」キャンペーンとして、東日本大震災の被災地への義援活動を展開しておりますが、その活動の一環として義援を目的に新発売したお菓子「濱の絆 レーズンサンド」を10月10日に販売開始いたしました。

そして、濱の絆を被災地である岩手県陸前高田市に10月17日にお届けしてまいりました。

東日本大震災で一本だけ残った岩手県陸前高田市の「一本松」。そして、横浜にも火災や大震災を乗り越え復活をとげた「玉楠の木」があります。この2本の樹から受ける生命力の強さに「復興=復活」のイメージを重ね、復活の絆をつないでいく2つのシンボルをモチーフにしたレーズンサンドがこの濱の絆で、玉楠と高田の一本松がデザインされています。

本年5月に陸前高田市へ訪問した際に、陸前高田の戸羽市長と高田の一本松を応援するスイーツを発売するというお約束もあり、発売となりました。

発売できたことを、陸前高田市の皆さんに「濱の絆 レーズンサンド」をお届けするために訪問いたしました。また、この企画に横浜ベイスターズのNPO法人で「横浜ベイスターズ スポーツコミュニティ」さんが賛同いただき、同時に陸前高田市で小学生を対象とした『ハマの絆』野球教室を開催しました。

ありあけスタッフと横浜ベイスターズ スポーツコミュニティのメンバーが10月17日に陸前高田市を訪問し、「濱の絆 レーズンサンド」のテーマである高田の一本松の下で、5月に訪問したときも面会した「高田松原を守る会」副会長の小山芳弘さんと再会しました。高田松原を守る会の皆様には発売前に試作品をお送りしていましたが、一本松と玉楠のデザインが非常に好評だということで、陸前高田市の皆さんに喜んでいただけたようです。



小山さんの話によると、松の木の状態は現在とても危険な状態だそうで、松の根に侵入してくる海水による根腐れを防ぐべく、今まで24時間態勢で電動ポンプによる海水のくみ上げを行っていたそうですが、衰弱した状況で厳しい環境にあるようです。今後は、松の木から採った種やクローンなどが芽をだしているということで、なんとか遺伝子は残していきたいとおっしゃっていました。

続いて、陸前高田市役所を訪問し、戸羽市長と面会。濱の絆をお渡ししました。また横浜ベイスターズ スポーツコミュニティさんから野球道具や横浜の少年野球チームから寄せられたメッセージなどを贈呈。市役所の皆さんもこの濱の絆を大変喜んでいただきました。戸羽市長は「少しでも良いので、震災で被災した陸前高田市を忘れないでいただきたい」とおっしゃっており、当社としては今後も復興を応援していくことをお約束しました。



その後、横浜ベイスターズ スポーツコミュニティさんによる『ハマの絆』野球教室が陸前高田市スポーツドーム「サン・ビレッジ高田」にて開催されました。陸前高田市の3つの少年野球チームの小学生約70名が参加し、横浜ベイスターズOB：鈴木尚典氏、小山田保裕氏、JX-ENEOS 元監督(シドニー五輪日本代表チームコーチ)林 裕幸氏が約2時間の野球教室を行いました。

参加した小学生はみんな元気で、目を輝かせながら元プロ選手との野球を通じたふれあいを楽しんでいました。教室終了後には、参加した小学生と関係者の皆さん、また当日参加できなかった野球チームにも濱の絆を差し上げました。横浜と高田の松のストーリーのお菓子は子どもたちにも大変喜んでいただきました。



また、陸前高田市を訪れる前日の10月16日には、ベイスターズスポーツコミュニティさんが盛岡市で野球教室を開催するというので、参加された盛岡市内の小学生約120名の皆さんにも、濱の絆をプレゼントさせていただきました。

今後、当社としてもこのお菓子を通じた被災地の支援活動を引き続き続けていきたいと思っております。